

スズキ株式会社との「Mizuho Eco Finance」の契約締結について

～日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション」の枠組みを活用～

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、本日、スズキ株式会社（代表取締役社長：鈴木 俊宏、以下「スズキ」）との間で、「Mizuho Eco Finance」（※1、以下「本商品」）に関する融資契約を締結しました。

〈みずほ〉は、お客さまとの積極的な対話（エンゲージメント）を通じて課題やニーズを深く理解し、お客さまのSDGs・ESGへの取り組みやイノベーションをサポートするための多様なソリューションの提供を積極的に実施しており、本件は、日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）」（※2）の枠組みにおいて、みずほ銀行が気候変動対応に資すると判断する融資案件です。

尚、本融資契約には「温室効果ガス排出削減目標（Scope1+2）」を評価指標として設定しています。

本商品は、脱炭素社会への移行に向けて、お客さまとともに取り組みを促進していくことを目的に、グローバルに信頼性の高い環境認定や評価等を組み入れた、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が開発した環境評価モデルを用いて、お客さまの取り組みや指数をスコアリングし、一定のスコア以上を満たしたお客さまに対し融資を行う環境評価融資商品です。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークについては、株式会社日本格付研究所（JCR）から環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に整合する旨の意見書を取得しています（※3）。

〈みずほ〉は、スズキが日本政府主導のGXリーグに賛同していること、事業活動に伴うGHG排出量を『2030年度に2022年度比42%削減』、『2050年にネットゼロ（カーボンニュートラル）』の中長期ビジョンを設定していることなど、評価モデルに使用している指標において高い水準で満たしていることを評価しています。

スズキは、電気自動車（EV）に加えて、ハイブリッド車（HEV）、天然ガス燃料車（CNG車）、牛糞由来のバイオガス燃料車（CBG車）、バイオ燃料車、さらには水素を使ったモビリティを、それぞれの地域・市場のエネルギー事情に応じて組み合わせながら「マルチパスウェイ」により進めることでお客さま・環境に寄り添ったカーボンニュートラル実現を推進しています。

〈みずほ〉は、気候変動対応や脱炭素社会への移行など、持続可能な社会の実現に向けた取り組み（サステナビリティアクション）を強化しています。環境・社会課題解決に向けた資金の流れを創出するサステナブルファイナンスや金融を超える知見・機能を活用したソリューション提供を通じ、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）に向けて、お客さまとともに挑戦していきます。

＜案件の概要＞

融 資 先：スズキ
貸 付 人：みずほ銀行

契 約 締 結 日：2025年6月18日

実 行 日：2025年6月30日

※1：「Mizuho Eco Finance」の商品概要にかかるウェブサイト

<https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/sustainability/mef/index.html>

※2：気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）

本枠組は民間における気候変動対応を支援するため、日本銀行が資金を貸付ける資金供給オペレーションです。

みずほ銀行は本枠組の対象先に選定されており、温室効果ガス排出量の削減に資するお客さまの取り組みを、ファイナンスを通じ支援しています。詳細については以下リンクをご参照ください。

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20211201release_jp.pdf

※3：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以 上